

今
号
の
内
容

- 脳神経外科医の二刀流？
- 睡眠時無呼吸と循環器疾患
- AZE 展 2013 優秀賞受賞
- 栄養部通信 食中毒について
- 臨床工学技士の紹介
- 退任の挨拶
- 新任医師紹介

8月の風景
おのみち
住吉花火まつり

写真提供: 広島県

当院では病院の1Fフロアで「FON」の無料インターネット接続サービスが利用できます。ご希望の方は医事課までお問い合わせください。

脳神経外科医の二刀流？

副院長・脳神経外科部長 須山嘉雄

最近、スポーツ番組で、日本ハムの大谷翔平選手の二刀流（投手と野手）がよく話題になっています。大谷選手については二刀流を継続していくかどうかについてはまだ賛否両論があるようで、スポーツ関連のニュースを見ていると毎日のように話題に上っています。

脳外科医、特に脳卒中外科にも二刀流があり、脳外科手術と脳血管内手術を両方行う脳外科医のことをいいます。例えば、脳動脈瘤について開頭クリッピング術とコイル塞栓術を行う、頸部頸動脈狭窄について頸動脈内膜剥離術とステント治療を行うといったことです。

さて、脳卒中外科医の二刀流についても賛否両論があります。良い点としては、よい治療方法を柔軟に選べる、治療介入のタイミングに遅れない、複合治療が二刀流の医師のみで可能であることです。

悪い点としては、勉強量や治療経験が2倍必要で多忙なことです。それを補うためには、人一倍勉強したり、他施設での難しい症例を見学に行くといった努力が必要です。

開頭手術、血管内手術の一刀流の中には、昔からその治療にこだわり、こつこつと自分の技術を磨いてこられている医師が多くおります。稀な疾患の血管内手術、解剖学的に難しい場所の開頭手術などは、それぞれの一刀流の医師の最も得意とする分野なのかもしれません。

一方で、二刀流は一刀流に比べ、一つの治療に固執せずに柔軟に治療法を選択できるということが言えます。それは患者さんに負担を与えず、無理せず治療が行える＝やさしい治療が行えることだと思っています。



コイル塞栓術 ▲



開頭クリッピング術 ▲

付図: (社)日本脳神経外科学会より

睡眠時無呼吸と循環器疾患

循環器内科（非常勤） 山本 秀也

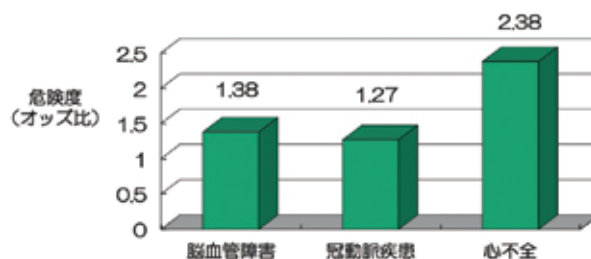
当院は脳血管障害などの急性期脳神経系疾患の診療を中心とする病院です。多くの患者さんは高血圧、高コレステロール、糖尿病、喫煙、肥満といった動脈硬化の危険因子を合併しておられます。また、脳塞栓症という病気は、心臓腔内にできた血栓が脳血管に詰まることでおこる病気であり、心房細動などの不整脈、弁膜症、心筋梗塞、心不全などの心臓病が潜んでいる可能性があります。このように脳と心臓は非常に深い関係があります。

当院の循環器内科は広島大学から週3日ほど非常勤医師交代で診療を行っています。虚血性心疾患のさらなる精査・加療が必要な場合には、救急搬送も含め広島大学病院などの専門医療機関との連携を計りながら診療を進めています。

今回は近年話題になっている睡眠時無呼吸症候群について取り上げたいと思います。閉塞型睡眠時無呼吸症候群は肥満などが原因で睡眠中に舌根が気道を閉塞することにより、呼吸が止まる現象が起こります。この時、脳や心臓など臓器の低酸素血症、交感神経の緊張による睡眠中の血圧上昇をきたすことが知られています。睡眠時無呼吸症候群患者では心筋梗塞 1.3 倍、脳梗塞 1.4 倍、心不全 2.4 倍の発症率があると報告されています。いびき（家族の指摘）、日中の眠気や倦怠感などの症状が診断の契機となります。また、早期高血圧の原因にもなっています。簡易型睡眠ポリグラフは呼吸状態、気流をモニターする器械で診断には有用です。一般的に（一時間当たりの）無呼吸・低呼吸の回数を AHI と呼び、5 以上で無呼吸と診断します。重症の場合には持続陽圧呼吸治療などの適応になります。

脳梗塞、心疾患を有する患者さんは、病気の再発予防のため睡眠時無呼吸の積極的な診断や介入治療をすることをお勧めします。

無呼吸患者（無呼吸低呼吸指数 ≥ 20 ）の正常コントロール（無呼吸低呼吸指数 < 5 ）に対する心血管系合併症の危険度



\\ AZE展2013優秀賞受賞 //

2013年6月8日、東京国際フォーラムにてAZE展2013の最終選考会が行われました。応募作品およそ100点の中から、厳正な審査の結果、最優秀賞、優秀賞、特別賞が発表されました。

当院の検査部、大屋光司診療放射線技師の作品（3T-MRIを利用した脳神経 Multi Volume 画像）が最終選考に残り、最終プレゼンテーション者15名の中から優秀賞に選ばれました。

※AZE展2013は、ワークステーションを使用した画像の臨床的有用性を高め、最良の画像を生み出し、ポリウム画像（解析）の普及と地位向上を図る事を目的とし、厳正な審査に基づき臨床的に有用な画像を選定・表彰を毎年行います。

受賞者コメント



▲優秀賞画像

今回、優秀賞を頂き、とても光栄に思います。このような3D画像が作成できたのは、周りのスタッフの協力と最新の3T-MRIを導入し、今回のフュージョン画像の作成にあたり、ご指導いただいた若林理事長のおかげだと思っています。この事に感謝すると共に、今後も新しい事に取り組んでいこうと思います。



食中毒について

管理栄養士 河手智子

高温多湿となる夏場は、細菌を原因とする食中毒が最も発生しやすい時期です。当院でも患者様に安心・安全なお食事を提供できるよう衛生管理には細心の注意を払っております。主な細菌性食中毒菌の特徴、予防法をご紹介します。

カンピロバクター

主な原因食品：加熱不十分な鶏・牛・豚の肉やその加工品など

加熱することにより死滅します。食肉の加熱を中心まで十分に行い生肉を取り扱った後は器具や手指を十分洗浄しましょう。

黄色ブドウ球菌

主な原因食品：おにぎり、調理パン、弁当など

人や動物の粘膜傷口に存在し熱に強い毒素を作ります。手指に傷があるときは手袋を着用するなど傷口が食品に直接触れないようにしましょう。菌が毒素を作らないよう低温（冷蔵）での保管が大切です。

ウェルシュ菌

主な原因食品：カレー、シチューなど

一度に大量調理された食品が原因となりやすいので、速やかに食べるか、常温に放置せず速やかに冷却しましょう。土壌中にも存在するため、野菜に付着した土汚れを十分に落とすことも大切です。

サルモネラ菌

主な原因食品：鶏卵、鶏・牛・豚などの食肉

卵の惣菜や生菓子はできるだけ早く食べることが大切です。肉類と卵の加熱調理は十分に行いましょう。

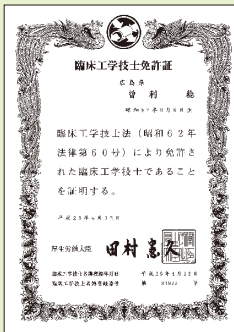
臨床工学技士の紹介

このたび、臨床工学技士が当院に誕生しました。臨床工学技士とは、「厚生労働大臣の免許を受けて、臨床工学技士の名称を用いて、医師の指示の下に、生命維持管理装置の操作および保守点検を行うことを業とするもの者。」をいいます。

《主な業務》

- ・呼吸療法業務
- ・人工心肺業務
- ・血液浄化業務
- ・高気圧治療業務
- ・心臓カテーテル業務
- ・保守点検業務
- ・安全管理業務
- ・ペースメーカー業務

※赤字が当院で想定される業務



病院の支援をいただきこのたび臨床工学技士の資格を取得しました。これまで看護師として勤務してきましたが、看護師兼臨床工学技士として、より安全な医療の提供のため微力ながら尽力したいと思っています。よろしくお願い申し上げます。

看護部 看護師・臨床工学技士 曾利 稔

退任の挨拶

1995年から4回で計12年間、脳神経内科医として勤務させて頂きました。あいだの6年も非常勤で外来をさせて頂いていましたので、梶川病院はまさに自分の「home」でした。病院理念である「Patient First」を忘れず、これからも脳卒中を中心とした脳神経診療に貢献できるよう研鑽を積んでいきたいと思っています。長い間本当に有り難うございました。

脳神経内科 野村 栄一



新任医師紹介



このたび翠清会梶川病院副院長を拝命し、平成25年7月1日に赴任いたしました。

昭和54年に金沢医科大学を卒業後、56年から同大学の神経内科に25年間務めた後、平成17年7月から8年間中国労災病院神経内科に奉職しました。専門は臨床神経学（神経内科学）、脳卒中学で、本院がますます信頼される施設になるよう最善を尽くす所存ですので、どうかよろしくお願いいたします。

副院長 脳神経内科 片岡 敏



平成25年7月1日より赴任しました向井智哉です。

翠清会梶川病院は日本でも有数の、脳卒中患者さんが多く受診される病院です。忙しい診療現場でも、笑顔絶やさず診療にあたりたいと思います。患者さんの声に耳を傾け、より良い医療を目指します。

よろしくお願いいたします。

脳神経内科医長 向井 智哉



医療法人 翠清会 梶川病院

TEL 082-249-6411
FAX 082-244-7190

〒730-0046 広島市中区昭和町 8-20
<http://www.suiseikai.jp>

